



2024.08.07

オンライン講座

精神医学（各論）_8_精神疾患の対応_2



もりさわメンタルクリニック

幻聴の対応①

状況：罵るような独り言が増え、大きな声も出始めた。本人から父に「悪口を言われる」と訴えた。

本人：隣のやつらが俺の悪口を言ってる。

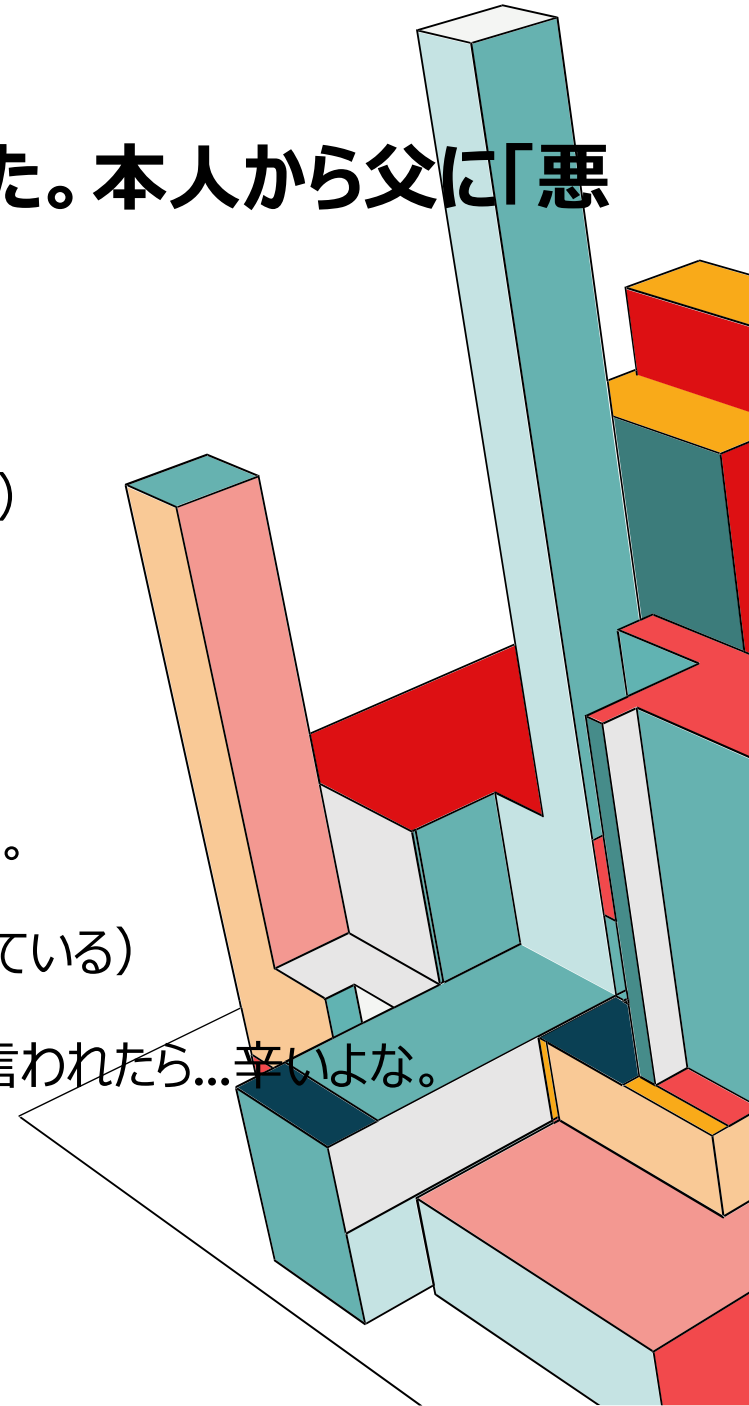
家族：誰もお前のことなんか言ってない（本人の感覚を頭から否定している）

⇒（本人の体験を確認する）そうか...どんなことを言ってるか分かるか？

本人：いや、確かに聞いた。ばかだから、おまえなんか死んだほうが良いって...。

家族：そんなこと言うわけないだろ。（本人の感覚を理由も示さずに否定している）

⇒（事実かどうかはともかく本人の感覚としての辛さに共感する）そんなこと言われたら...辛いよな。



幻聴の対応②

本人：俺が何かする度に...そんなことしてばかじゃないんかって...

家族：そんな声、お父さんには全然聴こえない。お前の勘違いだ。（さらに否定を重ねている）

⇒（本人の体験を感覚としては受け入れながら、共感的に協働の姿勢を伝える）そんな声をするんだな...なんとか少しでも楽になる方法を一緒に考えよう。

幻聴の対応③

追加

- ①軽度の幻聴（現実との接点が保たれている時）では、「聴こえても怖くない」、「言うことを聴かなくても悪いことは起きない」と安心感を与えるように話してみる。（症状が軽度の時の常識的対応）
- ②音楽を聴いたり、他の事に集中するようにして気をそらしたり、薬を飲んで眠ったりということは選択の一つ（幻聴で働く脳を休める、別の部分を使う）
- ③没入が激しい時は邪魔をしない（興奮しながら幻聴の相手と言い合いをしている最中などは話かけると危険なこともある）

